

事業所名 でいさーびす あいりんご8

支援プログラム (参考様式)

作成日 R7 年 4 月 28 日

法人 (事業所) 理念		<p>「楽しい・安心できる・使命感」をテーマに重点を置いています。 まず、楽しい気持ちを持つためには、同じ目線に立って自分も一緒に楽しむ。 次に安心できる気持ちを持つためには、もしも相手が自分の家族や友達だったらと思って接することです。 最後に使命感は、“自分だから” “自分しかできない”という気持ちをもって行動する。</p>					
支援方針		<p>楽しい・安心できる・使命感を持った支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しい (Enjoy) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「また来たい！」と思える環境を提供する。・個々の興味や得意なことを活かした活動を取り入れ、遊びや学びを通じて成長をサポートする。 ・笑顔とポジティブな関わりを大切にし、スタッフ自身も楽しむ姿勢を持つ。 ・支援活動には遊びやクリエイティブな要素を取り入れ、子どもたちが自然体で関われるようにする。 ・笑顔や対話を大切にし、日々の小さな成功体験を共有・称賛する。 2. 安心できる (Safety & Trust) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分らしく過ごせる「心の居場所」をつくる。・スタッフは温かく寄り添い、一人ひとりの気持ちに丁寧に向き合う。 ・失敗を恐れず挑戦できる環境作り。・一人ひとりの違いを尊重し信頼関係を大切にしていく。 ・安全管理を徹底し、保護者も安心できる環境を整える。・プライバシーの配慮や物理的・心理的な安全確保。 3. 使命感 (Commitment) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの未来を支える存在として、成長や自立を後押しする支援を行う。・一人ひとりの個性を尊重し、可能性を広げる支援を考え続ける。 ・専門性を高め、チームワークを大切にしながら、より良い支援を追求する。・自己の役割や意味を見出せるような環境づくり。 <p>この3つの柱を軸に、子どもたちの笑顔と成長を支える場所を目指します</p>					
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで		送迎実施の有無	<input checked="" type="radio"/> あり	<input type="radio"/> なし	
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや運動を通じて、自然と体を動かす機会を増やす。（リズム遊び、体操、屋外活動） ・定期的に手洗い・うがいの習慣を促し、感染症予防を徹底。 ・歯磨きや手洗いを習慣化するための「見本活動」や「ロールプレイ」を実施。 ・保護者とも連携し、日常生活の中で健康的な習慣が定着するよう支援。 ・基本的生活習慣の支援 ・リラックスタイムの導入 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で運動を促す（鬼ごっこ、ボール遊び、ダンス、障害物レースなど） ・リズム運動や音楽を活用（リズムジャンプ、音楽に合わせたストレッチ）・子どもの興味に合わせた活動を提供（スポーツ、ダンス、ヨガなど選べる運動メニュー） ・感覚を刺激する遊びを提供（シャボン玉遊び、スライム遊び、水遊び、砂遊びなど） ・体を動かしながら感覚統合を促す（トランポリン、ブランコ、マット、平均台、スクーターボード） ・視覚・聴覚に配慮したリラックススペースを設置（落ち着けるクッションソファなど）・手指の巧緻性を育てる（おはじき・ビーズ通し・ハサミ・折り紙） ・書字に必要な運筆力の向上（なぞり書き・点つなぎ・迷路）・お箸やスプーンの使い方練習・空間の構想力や手先の計画力を育てる（パズル・積み木・レゴ） 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じた学習支援（パズル、カードゲーム、クイズ、プログラミング的思考を育む遊び） ・五感を使った活動（料理体験、科学実験、お買物いごっこで数の学習） ・興味関心に沿った学び（好きなものをテーマにした図鑑作り、観察活動） ・一人ひとりの発達や理解度に合わせた学びのベースを設定。 ・視覚的支援を活用（スケジュールボード、絵カード、タイマーなど）し、見通しを持って取り組めるようにする。 ・音声指示・視覚支援（写真・絵・カード）で理解を助ける。・場面ごとのルールを具体的に提示する。・失敗を恐れず挑戦できるよう、成功体験を積み重ねる。 					
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや約束をわかりやすく提示（イラストや写真を使った視覚支援）。 ・気持ちのコントロールをサポート（感情カードを使い、自分の気持ちを表現する練習）。 ・社会で役立つ行動スキルを育てる、SSTで練習（挨拶、順番を守る、身の回りのことを自分でやる）。 ・ことば遊びを通じた学習（しりとり、なぞなぞ、絵本の読み聞かせ、かるた遊び）・ふわふわ言葉、ちくちく言葉の理解 ・音声やリズムを使った活動（手遊び歌、リズムに合わせた発声練習）・絵カードを活用した語彙力アップ（イラストを見て言葉を当てるクイズ） ・話す量・速さ・大きさの調整、相手に応じた話し方の理解・会話の「きっかけ」「続け方」「終わらせ方」のパターンをロールプレイで学ぶ。 					

人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・無理に友だちと関わらせず、一人ひとりのペースを尊重。 ・「関わりが苦手な子」に対しては、間接的な関わり（並んで遊ぶ、共通の遊びを楽しむ）からスタート。 ・スタッフが間に入りながら適切な関わり方をサポートし、人とのやりとりの成功体験を積む。 ・お店やさんごっこ、バスの乗り方練習など、社会的ルールを学ぶ遊びを実施。 ・「ありがとう」「ごめんなさい」を伝える練習を楽しく（お札の手紙作り、感謝のメダル作り）。 ・役割を持って活動する経験を増やす（当番活動、イベントの司会など）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人でできない活動を通して協力する力を育む
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でできる遊びや学びのアイデアを提供（簡単な運動遊び、感覚遊び、コミュニケーションゲームの紹介）。 ・子どもの得意なことや好きなことや成功体験を共有し、家庭での会話のきっかけを増やす。 ・「一人じゃない」と感じられる環境を作り親が安心して子育てできるよう支援。 ・家庭と地域全体で子どもの成長を支えられるネットワークを構築。 ・「親が笑顔でいることが、子どもの成長につながる」ことを意識し、家庭の負担を減らす支援を行う。 ・「できない」ではなく「まだ練習中」の視点を伝え、不安を軽減 ・悩みを話せる場や情報交換の場の提供 	移行支援	<p>子どもたちが次のステップ（小学校から中学校、中学校から高校、または就労・自立に向けた準備）へスムーズに進めるようサポートすることを指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境への期待を高めるプログラム ・環境の変化に適応できるよう、事前に見通しを持たせる ・「できること」を増やし、自信を持って進学できるようサポート。 ・学校や家庭と連携し、一貫した支援を提供（個別の支援計画に基づいた移行支援）。 ・子どもが「次のステップへ進むこと」に前向きになれるよう支える。 ・他機関連携による「切れ目のない支援体制」を構築
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援機関と連携し、家庭が使える支援サービスの情報を提供。 ・子どもが家庭・学校・地域で一貫した支援を受けられるようにする。 ・地域社会の理解を深め、障害のある子どもたちが安心して暮らせる環境を作る。 ・他機関連携による「切れ目のない支援体制」を構築 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で学び合う社内研修 ・外部研修への参加促進（発達障害、感覚統合、行動支援、虐待防止、家族支援など）。 ・「子どもと一緒に楽しむ」ことを大切にする文化をつくる（職員もイベントに積極参加）。 ・「支援のプロ」としての自覚を高め、専門性を深める環境を整備。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣・節分・運動会・遠足・クリスマス会・全事業所合同活動など 		